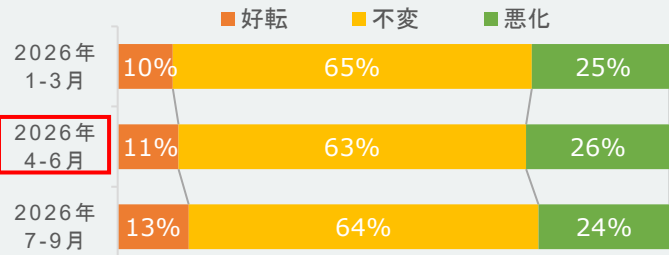


川崎商工会議所 中小企業景況調査 2026年4～6月期 調査結果

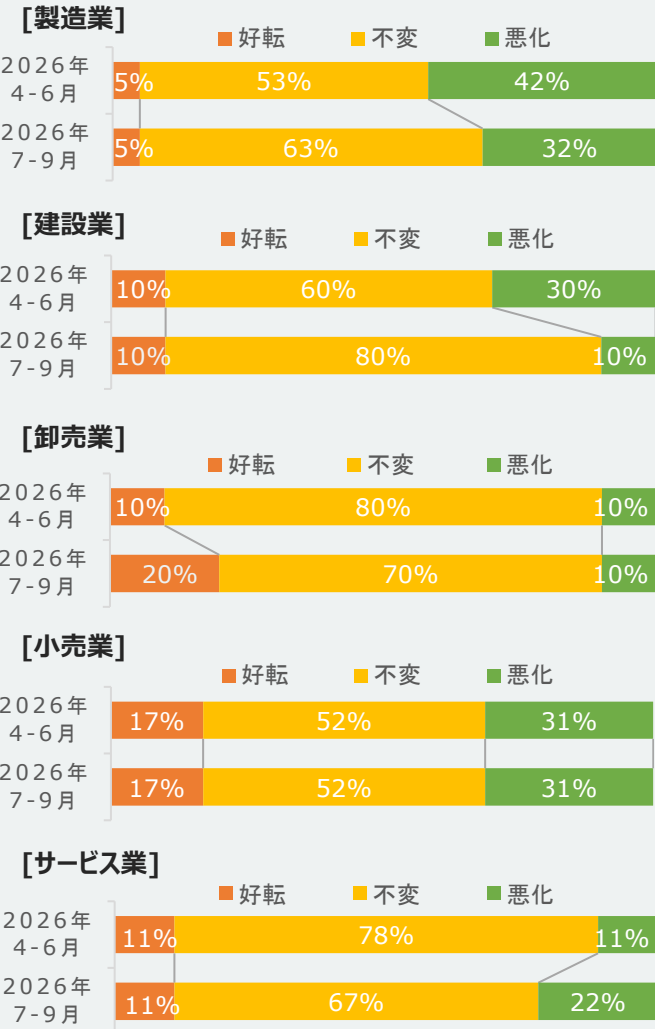
●調査対象 川崎商工会議所会員 80事業所 ●調査時期 2026年5月21日～6月8日

1 業況について

- ◆ 今期の業況は、前期に続き、全体として「不変」が6割超と大勢を占めた。一方、「好転」は1割、「悪化」は2割強となっている。業種別に見ると、「好転」は小売で2割弱みられるが、他業種では1割程度に留まった。「悪化」は製造で4割強と最も高く、建設と小売も共に3割強に達している。一方、卸売とサービスでは1割程度にとどまり、業種間での業況に差がみられた。
- ◆ 来期の見通しは、全体として今期と大きな変化はみられない。業種別に見ると、卸売のみ「好転」が2割に上った。一方「悪化」については、製造で3割強、建設で1割へと減少した。サービスでは悪化と予測する企業が2割強に増加しており、全体的な傾向は維持しつつも、業種によって先行きへの期待と警戒が分かれる形となった。



■ 業種別



2 設備投資について

[今期（2026年4月～6月）]

実施した：15% 実施していない：85%

＜実施内容＞

建物	設備	車両・運搬具	付帯設備	福利厚生施設
8%	17%	42%	25%	8%

[来期（2026年7月～9月）]

計画している：13.8% 計画していない：86.2%

＜計画内容＞

建物	設備	車両・運搬具	付帯施設	OA機器	その他
18%	27%	9%	9%	18%	18%

3 経営上の問題点 [複数回答]

- ◆ 全業種で「原材料・仕入価格の上昇」といったコスト面の課題が上位を占めた。特に建設では8割超、サービスでも6割超が課題に挙げており、価格高騰が各業種の経営を圧迫している。
- ◆ 製造や卸売、小売では「需要の停滞」や「経費の増加」が上位にのぼった。また、建設や小売、サービスでは「人件費の増加」が共通して上位にあり、コスト高や需要の低迷など、複合的な課題に直面している。

【製造業】

1位	原材料価格の上昇	47%
2位	原材料費・人件費以外の経費の増加/需要の停滞	32%
3位	製品（加工）単価の低下・上昇難/従業員の確保難	16%

【建設業】

1位	材料価格の上昇	82%
2位	材料費・人件費以外の経費の増加/従業員の確保難	27%
3位	材料の入手難/人件費の増加	18%

【卸売業】

1位	人件費以外の経費の増加	30%
2位	仕入単価の上昇/需要の停滞	20%
3位	大企業の進出による競争の激化/販売単価の低下・上昇難	10%

【小売業】

1位	仕入単価の上昇/需要の停滞	41%
2位	消費者ニーズの変化への対応/人件費以外の経費の増加	23%
3位	人件費の増加/販売単価の低下・上昇難	18%

【サービス業】

1位	材料等仕入単価の上昇	61%
2位	人件費の増加	39%
3位	人件費の増加以外の経費の増加	28%